

柿渋塗料のレシピ

<1㎡を2回塗れる量が出来ます>

塗れるところ 柱・壁・ドア・窓枠、木製家具・木製玩具
渋紙、うちわ、番傘、ちょうちん
屋外：収納庫、ウッドデッキ、犬小屋
戸格子、板塀

材 料・道 具

材料:	① 主成分：低臭柿渋液	150g
	② 溶剤：無し。そのままお使い下さい	
	③ 粉末顔料：黒(松煙)又は赤茶(弁柄)	10g
道具:	① 200ccポリカップ	2個
	② 計量スプーン	2本
	③ 刷毛	2本
	④ 研磨紙(#400)	1枚
	⑤ ふき取り用布	2枚

作り方・調合

柿渋液はそのままでも塗れます。
下記作り方は、顔料配合時の作り方です。

- ① お好きな色の顔料全量をスプーンで200ccポリカップに
あけ、その上に、柿渋液を少しずつ入れ刷毛で練ります。
- ② ペースト状になったら残りの柿渋を入れて顔料が
分散するようにかき混ぜます。

塗 り 方

- ① 塗装面のゴミやほこりを取り除き、
研磨紙(#400)で研磨します。
- ② 柿渋を刷毛でよく混ぜて下さい。特に顔料入り柿渋
の場合、顔料は沈殿しますので良く混ぜて下さい。
- ③ 刷毛で木目に沿って柿渋を塗って下さい。塗ったら
すぐに毛羽立ちのしない布(ふき取り用布)で塗面の
柿渋をふき取って下さい。塗装面に柿渋の液だまり
があると乾燥後色ムラになります。
- ④ 半日以上乾燥させた後研磨(#400)して付着した
毛羽を取ってください。
- ⑤ その後②からの工程を繰り返し上塗りをして下さい。
- ⑥ ポイントは柿渋を薄く塗り色ムラを出さず
3、4回程度の重ね塗りで色の深みを出す事です。
- ⑦ ご使用後の刷毛・器材は水で洗ってください。

特 徴・豆 知 識

柿渋は、柿の果汁をしぼり、自然発酵させたもので
タンニン成分を多く含み、木材・紙・布に使用
され、防水・防腐・防虫・抗菌効果があります。
柿渋特有の臭いは乾燥後は消えます。
塗装後はすぐに発色しませんが、約1週間で紫外
線や空気酸化により独自の色合いになります。

弊社では3タイプの柿渋を用意しております。
柿渋・・・昔ながらの柿渋液
低臭柿渋・・・従来品を精製し臭いを抑えた液状品
粉末柿渋・・・水で希釈(濃度は10%)して使う低臭品
粉末品は液体品に比べ艶は多少落ちます。

諸 注 意

- ① 柿渋は鉄と反応すると黒くなりますので、
保存にはポリ容器やガラス容器をお使い下さい。
- ② 空気に触れるとゼリー状になりやすいので、
こまめにフタをして下さい
- ③ 固まった場合は80℃位のお湯で湯煎にかけ、
30分ほどよくかき混ぜて下さい。
- ④ 屋外木工製品にお使いになる場合は通常
数ヶ月単位での重ね塗りが必要となります。
メンテナンスを簡略化するため弊社の木部用
撥水塗料を上塗りされる事をお勧めします。